

はじめに

学校長 宮川正美

本校の研究テーマ「発達と障害に応じた教育をめざして—からだづくりを通して—」を設定し、その取り組みを始めてから早いもので約3年が経過した。従来から、本校の目指す教育は12年間の一貫教育によって社会的自立を達成させることにある。そのために必要な身辺自立、集団参加、社会生活能力の向上、職業生活への適応等の能力を育てるための手立てがなされてきたが、十二分な成果をあげることができなかった。

そこで、初年度はなぜ本校の児童生徒に「からだづくり」が必要なのか主観的な見方でなく、客観的な実態に基づくための児童生徒の実態調査や「からだづくり」に必要なデータづくり等を行い、その実態把握に努めた。そのことから、障害を克服し発達する力を育てるために必要な根底の力となる「からだづくり」が必要であることがはっきりしてきた。

2年度は初年度のデータを詳しく解析し、その結果を踏まえて研究実践がなされ、それなりの成果を挙げてきたと思われる。しかしながら、運動場面とともに生活場面での「からだづくり」を重視し、努力したが、今一步意欲面での盛り上がり方にもものたりなさを感じていた。

そこで、本年は今までの欠陥部分を補いつつ、一層やる気を起こさせるよう働きかけ、運動場面だけでなく、日常生活場面の中でも自分自ら、すすんで楽しく、生き生きと取り組めるよう仕向けた。そして、ようやくその成果が見えてきた。

しかし、それにもかかわらず、総合的にみて本校の児童生徒のからだは必ずしもバランスがとれてきたとは言えず、ある部分の伸び悩みが感じられる。その原因がどこにあるのかいち早く見つけだし、その点を含めて来年度の課題として取り組みたいと考えている。

いろいろ検討しながら、研究を進めてきたが独断的な面がありはしないかと危惧しているところである。忌憚のないご批判が頂ければ幸いである。

最後になったが、今回も鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、鳥取県盲・聾・養護学校長会、鳥取県心身障害児教育研究会、鳥取県東部地区心身障害児教育研究会から研究発表大会のご後援を頂いたことに対し、また、鳥取大学教育学部教官にご協力頂いたことに対し深く謝意を表したい。